

平成 20 年 7 月定例教育委員会会議録

1. 日 時 平成 20 年 7 月 23 日（水）午後 2 時 40 分～

2. 場 所 市立公民館・中央地区公民館 3 階 講座室 4

3. 出席者

委員長 毛利 高二 委員長職務代理者 坂田 忠義
委員 宮崎 慶次 委員 川岸 靖代 教育長 永本 定芳

4. 事務局出席者

教育次長兼教育総務部長	西田 寛	生涯学習部長	池阪 雄宏
学校教育部長	樋口 利彦	生涯学習課長	鍋谷 佐和子
総務課長	柿本 邦彦	スポーツ振興課長	元廣 秀晴
学校管理課長	児嶋 英幸	郷土文化室長	近藤 利由
学校教育課長	小池 俊一	図書館長	松田 周光
人権教育課長	山下 吉信	総務課参事	金田 隆行
産業高等学校事務長	宮崎 信男	総務課参事	須賀 俊介

開会 午後 2 時 40 分

前回会議録について異議なく承認された。本会議録署名者に坂田委員を指名した。
傍聴人なし。

報告第 44 号 岸和田市教育委員会評価委員会委員の委嘱について

○ 毛利委員長

報告第 44 号について、事務局から説明を求めます。

○ 柿本総務課長

別紙委員名簿のとおり、3 部門で 4 名の方に 8 月 1 日付で委嘱します。任期は、平成 22 年 3 月末までとなっている。

報告第 45 号 浜小学校への寄付について

報告第 46 号 浜幼稚園への寄付について

報告第 47 号 八木南小学校への寄付について

報告第 48 号 絵本の寄付について

○ 毛利委員長

報告第 45 号から 48 号については、書面での報告となります。

報告第 49 号 平成 20 年度 きしわだ市民カレッジの開設について

○ 毛利委員長

報告第 49 号について、事務局から説明を求めます。

○ 鍋谷生涯学習課長

平成 20 年度きしわだ市民カレッジの開設について報告する。市民夏季大学の発展型で、今回は、9 回中 6 回以上参加出来る人を対象としている。

報告第 50 号 第 2 次岸和田市生涯学習計画の進捗状況等について

○ 毛利委員長

報告第 50 号について、事務局から説明を求めます。

○ 鍋谷生涯学習課長

第 2 次岸和田市生涯学習計画の進捗状況について報告する。平成 19 年度進捗状況については、計画以上は 3 事業、計画どおりは 130 事業、計画以下は 5 事業となっている。

報告第 51 号 平成 20 年度 初心者水泳教室について

○ 毛利委員長

報告第 51 号について、事務局から説明を求めます。

○ 元廣スポーツ振興課長

平成 20 年度初心者水泳教室について報告する。毎年行っているもので、泳げない 1～3 年生対象の水泳教室。受講料は、去年より 1 日当たり 100 円高くなっている。

報告第 52 号 卓球台の寄付について

○ 毛利委員長

報告第 52 号は、書面にて報告とします。

報告第 53 号 第 21 回濱田青陵賞受賞者の決定について

○ 毛利委員長

報告第 53 号について、事務局から説明を求めます。

○ 近藤郷土文化室長

第 21 回濱田青陵賞受賞者の決定について報告。受賞者は関 雄二氏で、業績は古代アンデス文明の形成過程とその特質に関する研究です。現在のアンデス研究の中心人物。内容は、8 月 1 日の市広報に掲載予定。海外研究での受賞は、珍しい。特に南米は。

報告第 54 号 一日体験入学の実施について

- 毛利委員長

報告第 54 号について、事務局から説明を求めます。

- 宮崎産業高等学校事務長

一日体験入学の実施について報告する。中学 3 年生、その保護者、教職員を対象。今回、高石市以南岬町までの 52 中学校へ案内している。昨年度の参加者は 305 名で市内、市外ほぼ半々の内訳である。

報告第 55 号 市民公開講座「簿記講座（2 級）」の実施について

- 毛利委員長

報告第 55 号は、書面にて報告とします。

- 毛利委員長

次に、案件に入ります。

議案第 24 号 訴えの提起について

- 毛利委員長

議案第 24 号について、事務局から説明を求めます。

- 児島学校管理課長

訴えの提起について説明する。調停不成立のため、小学校一部地主に対して、地代減額確認請求を求め訴訟を提訴するもの。

- 西田教育次長

他に 25 件の借地契約があるが、問題は起こっていない。

- 毛利委員長

本件を 9 月議会へ提出することにご異議ございませんか。ご異議がないようですので承認します。

- 毛利委員長

次の議案第 25 号・第 26 号については、説明の準備がありますので、先に議案第 27 号を審議いただきたいと思います。これにご異議ありませんか。

- 委員

異議なし。

議案第 27 号 補正予算について

- 毛利委員長

議案第 27 号について、事務局から説明を求めます。

- 松田図書館長

補正予算について説明する。3万円の寄付による図書の購入。

○ 毛利委員長

本件を9月議会へ提出することにご異議ございませんか。ご異議がないようですので承認します。

議案第25号 岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における平成21年度使用教科用図書の採択について

○ 毛利委員長

議案第25号について、事務局から説明を求めます。

○ 小池学校教育課長

産業高等学校の方から選定委員会の報告について説明いたします。

○ 多田教務主任（産高）

平成21年度使用教科用図書の採択について説明する。

使用教科書について3冊の変更を申請いたします。現代社会、家庭、工業の3つ。それぞれ、ビジュアル面、内容面で優れており、見やすく使いやすいものである。

○ 永本教育長

家庭科の本は、レベルアップしたものなのか。

○ 多田教務主任（産高）

はい。今までのものでは、生徒にとって物足りなくなっており、今回はボリュームもあり、レベルを上げたものを選んでいる。

○ 坂田委員長職務代理者

今回の選定は見開きの方が利用しやすいとの判断ですね。また、現代社会は内容面ではあまりかわらないのか。

○ 多田教務主任（産高）

現代社会については、新しいデータや情報、特に、ビジュアル特集に最新の情報などがあり、選んでいる。工業は、ソフトウェア、ハードウェアそれぞれ盛りだくさんの内容となっている。

○ 毛利委員長

それでは、今回の産業高等学校全日制の教科書変更について承認とすることといたします。次に、定時制教科書について説明をお願いします。

○ 山田教務主任（産高）

別紙のとおり、国語、英語、商業（ビジネス基礎、簿記、会計、情報処理）の6冊を変更したい。

まず、国語は、サイズが大きくなり見やすいこと、また、発声法等の記載がある、さらに、ステップごとに構成されており、基礎から応用へ理解を深めやすくなっている。

英語は、会話文が多く、生徒が内容に興味を持ちやすい構成である。

商業・ビジネス基礎は、単元ごとに要領よくまとめられたもので、自宅学習が中心の授業で

あるため、重要なポイントが單元ごとに明記されており、使いやすい。

商業・簿記は、ていねいな解説で生徒が単元の基礎を習得するのに適している。また、練習問題も豊富で検定試験を受験する生徒に適している。

商業・会計は、貸借対照表、損益計算書ともに、導入から作成までバランスよく構成されている。簿記と同じ会社。

商業・情報処理は、説明が理解しやすい内容で操作の流れも詳細で生徒が取り組みやすい。

- 永本教育長
久しぶりの改訂になるのか。
- 山田教務主任（産高）
検定試験を目指すために対応したもので、今の流れに合わせた久しぶりの改訂です。
- 永本教育長
検定試験は、意欲につながるのでもいいことではないでしょうか。
- 毛利委員長
それでは、異議なしということによろしいですか。では、承認いたします。

議案第 26 号 岸和田市立小学校における平成 21 年度使用教科用図書の採択について

- 毛利委員長
議案第 26 号について、事務局から説明を求めます。
- 小池学校教育課長
今年度は、特殊な状況下にありまして、新しいものが出ておらず、平成 16 年度と同じものでよりよいものを選ぶこととなりました。岸和田市立小学校中学校教科用図書選定委員会答申にもありますように、現在使用している教科書に不具合はないとの見解もあり、平成 22 年度まで引き続き使用することとした。
- 毛利委員長
本案件についてご異議ございませんか。では、承認いたします。

その他

- 毛利委員長
次に、前回、宮崎委員から提案のあった件について、委員の皆さんに議論いただきたいと思えます。
- 小池学校教育課長
前回、ご質問のあった事項について説明します。第 1 点目は、小学校における英語活動についてであります。資料のとおり、20 年度は 6 年生で 24 小学校の合計が 228 時間で、19 年度の 92 時間に比べかなりの増加となっている。また、各学年で英語活動時間数の増加が見られる。
次に第 2 点目は、英語研修の費用についてであります。外部の英語スクールでは年 48 回

の授業で、一番安くて、20万円程度です。

続いて3点目の習熟度別クラスについてであります。今年9月以降、各市で取り組むよう府からも話が下りてきており、学校は決定していないが、市内の小学校で12校、中学校で2校位とのことである。予算の心配はிரらないが、問題は、人の手配にある。準備が整った学校から、2学期以降取り組んでいくという方向は出てきている。

○ 宮崎委員

前回にも言ったが、小学校によって英語活動に差があるのは、好ましくない。小学校と中学校の先生同士連携をとってほしい。また、今後、小学校に英語のできる先生が入ってくるだろうが、準備段階として、先生が自ら学んでいく必要があるということが主旨。

しかし、英語研修だけに補助をするとすると公平性の問題も係ってくるのが考えられる。

○ 小池学校教育課長

現在は、全ての学校で英語活動が出来ていないが、平成23年度には、全ての小学校で5、6年生は週1時間、英語を学ぶことになる。また、今年度、拠点校として修斉小学校で補助員を配置し、週1回英語活動を行っている。

○ 坂田委員長職務代理者

補助員は、何名いるのか。費用は。

○ 小池学校教育課長

補助員は、2名です。費用は、1日5,000円程度です。

○ 宮崎委員

英語について、私立小学校に負けずに、公立小学校に頑張ってもらいたい。

○ 坂田委員長職務代理者

今の英語活動をどう拡大していくかが大事なこと。

○ 永本教育長

英語活動を大切なものと捉え、引き続き検討していきます。

閉会 午後4時40分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

委員長

署名委員